

退官して、時間的余裕が増大したが、それに反比例して知的刺激が少なくなったので、それを補うべく同期に教えて貰った、東京財団が主催する「虎ノ門DOJO」の例会に可能な限り参加させて貰っていた。然しながら、何故かは知らないがそれも昨年未で中止されて、残念に思っていた次第であるが、それに代わるべきものとして東京財団の研究者や委嘱研究の研究報告会が実施されることとなった。

昨日（30日）中国の歴史研究の第一人者、双璧とも称される2名の学者による講演会が約2時間に亘り実施され、小生も参加させて貰った。

以下はその所見である。講演の抄録は省略する。歴史研究の現況に関する講演であり、南京虐殺そのものではなかったけれども、奇異に感ずる面が多々あったことも否めない。



五星紅旗



日章旗

- 1 南京大虐殺 30万人の「30万人」については良識ある学者は、懐疑的と言うかあの数字は政治的な数字であると言うのが共通認識である。
- 2 人類史的・文明史的の観点から云々は詭弁
聞いていて、矢鱈と表題の語彙を振り回すのは、奇異に感ずる。全ての戦争犯罪がそうであることは事実ではあるが、殊更にそれを採り上げて論じんとするのは他に意図があるのではないかと勘繰りたくなる。
- 3 虐殺があったとされる地理的・時間的範囲の拡大傾向は何故か
何故か、虐殺があったとされる時間的なスパンや地理的範囲が拡大しているようだ。無理やり30万人に近付けんとしているのか？
- 4 虐殺の定義を明確にしていない議論に意味があるか
講演の中で虐殺の明確な定義に関する研究への言及がなかったのは何故か。上記4及び5が論議の前提である。
- 5 東京裁判に捉われ過ぎ或いはそれを前提にすることの是非
東京裁判を日本が受諾しているから、それらが前提或いは与件であるというような認識が垣間見えたが、果たしてそういうものか。
- 6 資料を収集したと言うが、如何なる資料なのか、一次資料かその信憑性は
万卷に及ぶ膨大な資料を収集したと言うが、資料の質はどうなのか。その資料を綿密に分析し、相反するデータ等を付き合わせることをしたのか、二次資料や政治的文書等は研究資料としては有害無益である。
- 7 共通認識の確立はある程度は出来るか？ 淡い期待
それにしても、中国の学者が30万人と言う数字は政治的なものであるというのだから、日中の共通認識が得られるのではないかと淡い期待があるが・・・然し、彼の国の歴史観は一朝にして変わり得るものであり、期待しないほうが良いのかもしれない。
- 8 歴史観、日本の多様な歴史観に比して単一の歴史観しかないのではないか
南京事件に関しても、日本ほど多様な歴史認識を有する国民は少ないだろう。彼の国はお仕着せ、唯一無二の歴史認識しかないのではなからうか。かかる相違を乗り越えての共通認識を確立できようか。
- 9 日本のみならず違法不法行為を捉えるのではなく、全てを捉えることこそ公平・中立であ

る。免罪符にするわけではないが…。戦争は残酷である。日本のみが悪鬼の如くに喧伝されることには異議がある。文明論や人類史的と言うならそれらを包含しての議論でなければならぬ。

10 組織性の有無がポイントではないのか

南京虐殺(事件)は、日本軍が組織的に無辜の民を違法に殺害したかどうかである。素言することを裏付ける資料は存在しないし、あろう筈がない。

11 議論の前提(提議や範囲等)をしっかりと整理することから始めるべき

既述

12 冷静な議論をする状況にあるか、しないよりは良いが…

日中が冷静かつ真摯に共同研究し得る環境にあるのだろうか。まだ疑問なしとはしないが、しないよりは良い。然しながら、結論を急ぐべきではない。

13 共通的な認識が為されるまでは一方的反日的な宣伝・デマゴグはすべきでは無いと思うが…

共通認識の抽出は多分に相当な時間を要しよう。その間は、双方良識を持って、一方的な宣伝はすべきではない。そういう意味において中国側の一方的な半日宣伝施設等は即刻廃止すべきである。政府の施設ではないと言うだろうが、政府公認であることは誰しもが認めるところだ。

14 日本の立場は立場ではっきり世界に発信すべきである。

中国が一方的に陰に陽に南京事件を大虐殺として喧伝するのを日本が唯手を拱いていて良いものだろうか。国際社会において日本は主張すべきを主張すべきである。

15 支那若しくは CHINA の語彙の使用について

意地の悪い質問もあるもので、英語の「china」は良くて何故「支那」と言うと良くないのかと。回答も歯切れ悪いと言うか、それでは我等は日本人を「倭人」と言うぞと言う恫喝に近いものである。ここに中国の学者の限界がある。倭人は明らかに蔑称であるが、支那人は一般名称である。東シナ海を何と読み替えるのか。

何れにしても、彼等2名には学者としての一片の良心はあると見受けたし、単なる御用学者ではなかろう。そういう意味においてはある程度の進展は期待しえるのだけれど、余り期待しないほうが良からう。

斯く書きながら、小生は日本軍が南京において全く違法・不法行為を為さなかったなどと言う積りは毛頭ない。戦争状態だったからと言ってそれらが許される筈もないことは重々承知である。戦争犯罪は厳しく糾弾されるべきであるのは当然だ。

参考までに、折々の記 No75 : 捏造に踊る日本！

(<http://homepage2.nifty.com/teruo3/oriori/oriori.htm>)